

平成30年 8月29日現在

機関番号：32634

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26770105

研究課題名(和文)世界の国立劇場の比較研究

研究課題名(英文)National Theatres in the World

研究代表者

松田 智穂子(Matsuda, Chihoko)

専修大学・経済学部・准教授

研究者番号：90646887

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：18世紀ヨーロッパで発生した国立劇場制度は、テレビ・ラジオなどの他メディアと比して一度の動員数が少ないにもかかわらず、第二次大戦後もとりわけカリブ・アジア地域などへ著しく拡大した。演劇ジャンル固有の一体感と協働性によって、自国民のナショナリズムと連動した政治的機能のみならず、インターナショナルな文脈の中で、自国のアイデンティティを確立し、さらには国際社会においてそれを発信する文化的役割を一層果たすに至った。国立劇場とその制度を通じて、結束と排他性というナショナリズムの良・悪性面はいずれも増幅されることが、英語圏カリブ諸国および日韓マレーシアの事例において顕著に見られた。

研究成果の概要(英文)：National theatres first appeared in 18th century Europe has spread to many countries in the Caribbean region and Asia even after the Second World War, despite less mobilisation compared to other media such as television or radio. The genre of theatre and drama uniquely earns a sense of unity and cooperation among artists and the audience: therefore, the national theatres succeeded in playing not only political roles that bilaterally link to domestic nationalism but cultural roles that attempt to establish own national identity and then appeal it in the international context. Especially the case studies of Anglophone Caribbean countries and Asian ones, including Japan, South Korea and Malaysia, respectively revealed that the system of national theatre as well as national theatres themselves could amplify both good and bad sides of nationalism, in brief, solidarity and exclusivism.

研究分野：演劇

キーワード：演劇 劇場 ポストコロニアリズム ナショナリズム

1. 研究開始当初の背景

着想に至った経緯は以下のとおりである。研究代表者は、旧英国領セント・ルシア出身のノーベル賞詩人デレック・ウォルコット(Derek Walcott, 1930-)の演劇活動を題材に研究を進めてきた。脱植民地化過程にあった 1950 - 70 年代から現在まで、ウォルコットと同時代人は演劇活動を通して自国文化の創設を目指している。このような、アイデンティティ形成を目標とする国民の自発的な演劇活動(国民演劇)の発生と発展を、英語圏カリブ海地域を中心に分析してきた。この間に、新国立劇場公演パンフレットの連載記事にて、ジャマイカとトリニダード・トバゴの国立劇場について報告する機会を得たこともあり、「国立劇場」という組織・制度そのものへと研究領域を広げた。

Marvin Carlson によれば、文化的独立を目指す国・地域において、劇場は出現しつつある国民意識を表現するための中心的媒体として機能する(“National Theatres,” 2004)。事実、国家が何らかの形で介入する演劇の制度は 18 世紀後半から、市民階級の勃興とナショナリズムの高まりと同時期に西ヨーロッパから北・東ヨーロッパへ、さらにはアフリカ、アジア、南米、カリブへと段階的に広がっていった。近代的な国民国家形成にあたり、国立の演劇文化と制度が発揮する機能を多角的に調査することは、営利目的の商業演劇とは明らかに異なる、国立劇場の本質を明らかにし、ひいてはグローバル化時代における国立劇場の 21 世紀的な意義を考えるヒントになると考えるようになった。

2. 研究の目的

国立劇場は文字通り「国」と関わりが深いと考えられ、それゆえに先行研究には国立劇場は対外的な目的にも寄与するという前提が欠けていた。一国の中だけに着目するのではなく、国境を越えた経済的・政治的・文化的視点から各国の国立劇場を包括して、舞台から特定あるいは不特定多数の他国に向けて発信される自国像、さらには逆に国際社会や国際世論から受ける影響に注目する必要がある。

このような前提に立ち、本研究は国立劇場の一国の近代化過程におけるナショナリズムと連動した装置としての政治的機能に加えて、インターナショナルな文脈の中で、自国のアイデンティティを確立・発信する装置としての文化的機能を明らかにすることを目的に進めた。

3. 研究の方法

(1) 先行研究書の調査・収集・解読

近代的国民国家成立の過程で国立劇場が成立していくにあたり、特徴的な各国の演劇的事象を取り上げて、英語による戯曲テキストの分析を中心に劇評の分析、公演状況の再現、歴史・文化的背景の調査等を通して分析する。

とりわけ日本では入手困難な洋書やローカルな新聞などの資料を、図書館を通じて現物貸借、複写取り寄せするほか、現地の図書館や資料館に赴いて調査・収集が必須である。

(2) 専門家との意見交換、ヒアリング

日本国内外問わず、変化に富む実際の舞台現場や演劇(特に舞台)研究の現在を書物のみから知ることは困難である。そのため、研究者あるいは各国の国立劇場の運営や舞台制作に近い専門家から生の声を聞くことが肝要であり、この観点から現地に赴いてのインタビューや意見交換、専門家を招聘するシンポジウムの機会を設けた。

4. 研究成果

(1) H26 年に実施したジャマイカ首都キングストンでの現地調査時に、西インド諸島大学名誉教授エドワード・ボウ氏および現地の演劇人(Honor Ford-Smith 氏と Jean Small 氏)と意見交換およびインタビューを実施したことから、研究目的で挙げた仮説の実証可能性を確信した。

また同時にジャマイカで行った資料収集調査では、西インド諸島大学図書館や国立図書館にて、日本や米国の図書館では入手不可能な 1930 年代の演劇パンフレット、未出版の演劇テキスト、西インド諸島大学紀要、Sistren 劇団発行の情報誌の記事などの入手に成功した。

成果論文「『凱旋のジャマイカ』(1937 年)モダン・パジェントに見る多人種・多民族」および英語圏カリブ地域の演劇と劇場に関する学会発表に際してジャマイカの事例研究を進めるにしたがい、18 世紀ヨーロッパで発生した国立劇場制度は、テレビ・ラジオなどの他メディアと比して一度の動員数が少ないにもかかわらず、第二次大戦後にも英語圏カリブ地域において、脱植民地化と国際社会への意識が強まるにつれ、国民演劇あるいは国立劇場の需要も高まっていく様相が明らかになった。

(2) 2017 年に日本英文学会第 89 回全国大会にて、シンポジウム「ポストコロナ演劇の現在」を、2018 年 2 月 26 日にシンポジウム「アジア諸国の国立劇場と文化政策 マレーシアと韓国のケーススタディ」を組織し、オーガナイザー・司会・コメンテーター

を務めた。

自身を含む各登壇者の研究発表を通じて、上記(1)の原因を以下のように導き出した。国立劇場およびその制度は、演劇ジャンル固有の一体感と協働性によって、自国民のナショナリズムと連動した政治的機能のみならず、インターナショナルな文脈の中で、自国のアイデンティティを確立し、さらには国際社会においてそれを発信する文化的役割を一層果たすに至った。

なお、各登壇者の発表タイトルは以下のとおりである。

シンポジウム「ポストコロニアル演劇の現在」

・貴志 雅之(大阪大学・教授)

「解剖と越境—Parks 劇におけるポストコロニアル・スペクタクルとしての身体」

・松田 智穂子(専修大学・准教授)

「国民を創る、女性を創る Sistrin Theatre Collective のモダン・パジェント Nana Yah (1980)」

・佐和田 敬司(早稲田大学・教授)

「オーストラリア先住民の演劇が目指すところ」

・岸本 佳子(北千住アートセンター・芸術監督)

「誰が他者なのか Manuela Infante と篠田千明 Zoo (2016)を事例に」

② シンポジウム「アジア諸国の国立劇場と文化政策 マレーシアと韓国のケーススタディ」

・谷地田 未緒(東京藝術大学・国際芸術創造研究科・助教)

「マレーシアにおける芸術支援 文化政策と官民の劇場運営」

・武田 康孝(国際交流基金アジアセンター)

「韓国の国内文化政策と文化外交」

(3) 上記(1)および(2)を通じて、国立劇場とその制度は、結束と排他性というナショナリズムの良性・悪性面をいずれも増幅しうることを明らかにした。

本研究の新しさは複数の国立劇場を比較分析する点、さらには「ナショナル」のみならず、「インターナショナル」な本質を探る点にあった。国立劇場は、その名称からも明らかであるように、国家の介在によって発生・発展した特異な組織・制度である。それゆえ、従来は、自国中心的な側面だけをことさら強調した研究がなされてきた。しかし、英語圏カリブ、アジア諸国、北米、日本を含む複数の国の国立劇場を、時代と地理を越え

て比較分析する本研究は、国立劇場とは他国に対するメッセージ発信基地でもあり、それゆえに舞台から発せられる自国像は他者の視線を意識的・無意識的に反映しているという国立劇場の本質的起源が明らかとなった。

情報と経済の世界的規模ネットワークが広がるグローバル化には、世界中が均質化し、国家や国境という境界が意味を失ったかのような現象の一方で、実際には、アメリカ合衆国を中心とする経済・政治大国を一層強化する現象という相反する側面がある。国家や国境は依然として堅牢であり、むしろローカル化の動きの中では、それらはますます重要な意味を持つようになっている。この意味において、グローバル化時代にも、国家レベルの文化政策として、2018年現在でも重用されている国立劇場という組織・制度の存在意義は失われることなく、むしろ増していると考えられる。国立劇場を、自国へ向けたナショナルの要素と共に、他国を意識したインターナショナルな組織・制度であることが研究期間を通じて明らかにしてきた。その結果的、グローバリズムの動きを強化すると同時にそれに抵抗するような国立劇場の21世紀的なあり方を分析した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

Chihoko Matsuda, “Derek Walcott: A Caribbean ‘National Theatre’ vs. Neo-Colonialist Tourism.” *Critical Theatre Review*, 13 巻、2014、査読有、69-81.

Chihoko Matsuda, “National Theatres in the Global Age: An Interview with Derek Walcott.” *Critical Theatre Review*, 13 巻、2014、査読無、19-21.

Chihoko Matsuda, “National Theatres in the Global Age: Derek Walcott Speaks.” *Critical Theatre Review*, 13 巻、2014、査読無、22-26.

松田 智穂子「『凱旋のジャマイカ』(1937年)

モダン・パジェントに見る多人種・多民族」専修大学人文科学研究月報、278 巻、2015、査読無、65-78.

[学会発表](計 5 件)

Chihoko Matsuda, “National Theatres in the Global Age.” International Federation of Theatre Research (国際演劇学会)、英国ウォリック大学、2014年7月29日。

松田 智穂子「ブラック・ナショナリズムと20世紀のモダン・パジェント W.E.B.デュボイスとマーカス・ガーベイ」専修大学 現代文化研究会、専修大学生田キャンパス、2015年2月24日。

松田 智穂子「「ジャマイカの勝利」(1937) 多人種のモダン・パジェント」日本演劇学会 全国大会、桜美林大学、2015年6月20日。

松田 智穂子「ブラック・ナショナリズムとモダン・パジェント W.E.B.デュボイスにみる」日本演劇学会 西洋比較演劇研究会 例会、成城大学、2015年9月19日。

松田 智穂子「国民を創る、女性を創る：Sistren Theatre Collective によるモダン・パジェント *Nana Yah* (1980)」日本英文学会 第89回全国大会、静岡大学、2017年5月

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松田 智穂子 (Matsuda, Chihoko)

専修大学・経済学部・准教授

研究者番号： 90646887

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

エドワード・ボウ (Baugh, Edward)
Professor Emeritus, University of the West
Indies, Mona Campus, Jamaica
西インド諸島大学・英文学科・名誉教授

谷地田 未緒 (Yachita, Mio)
東京藝術大学・国際芸術創造研究科・助教

武田 康孝 (Takeda, Yasutaka)
国際交流基金アジアセンター

葛西 周 (Kasai, Amane)
東京藝術大学・国際芸術創造研究科・講師
研究者番号： 00584161